

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 4 月 4 日 10:55AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 33,330～38,700 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 37,600～42,800 ドル
(S&P500) 5000～5800

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 15,700～18,800

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 139.000～151.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～105.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

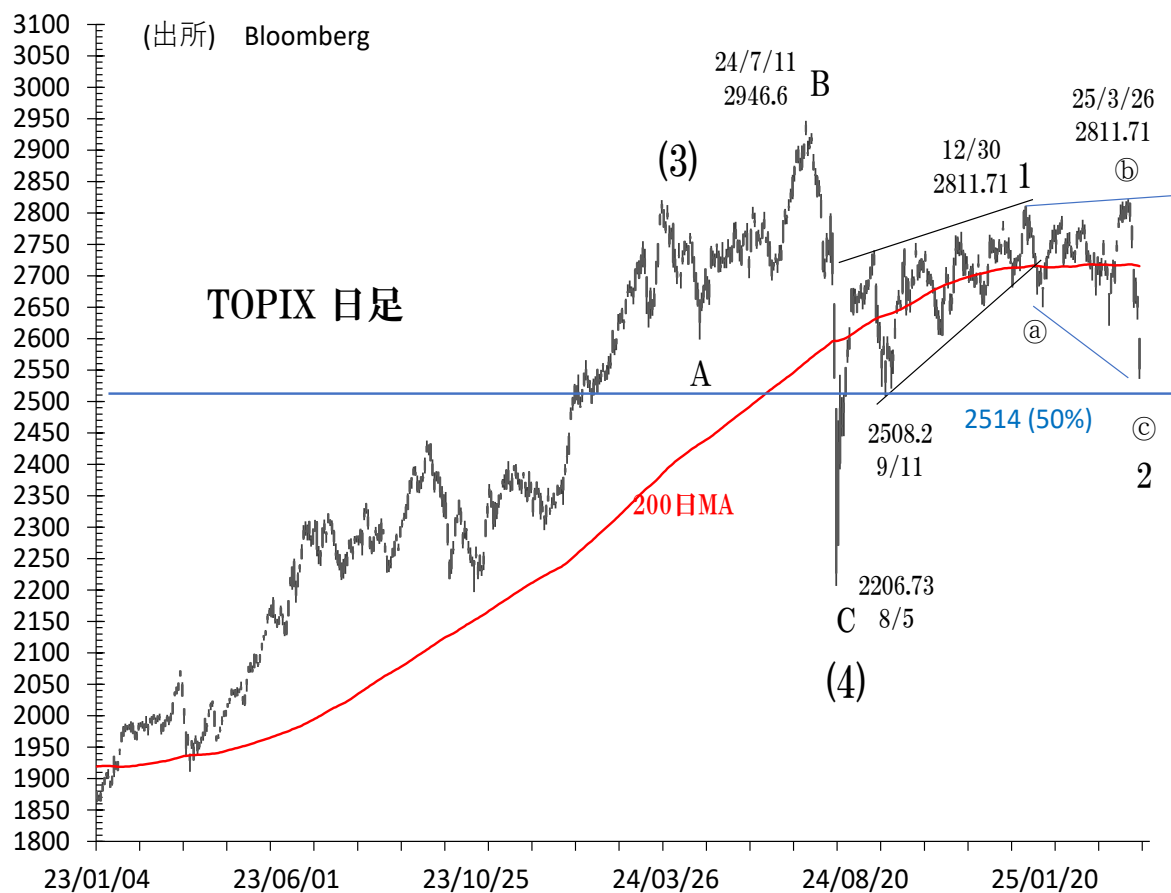
今年の日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇によって最高値を更新するでしょう。そのターゲットは[4万3000円-4万5000円]です。

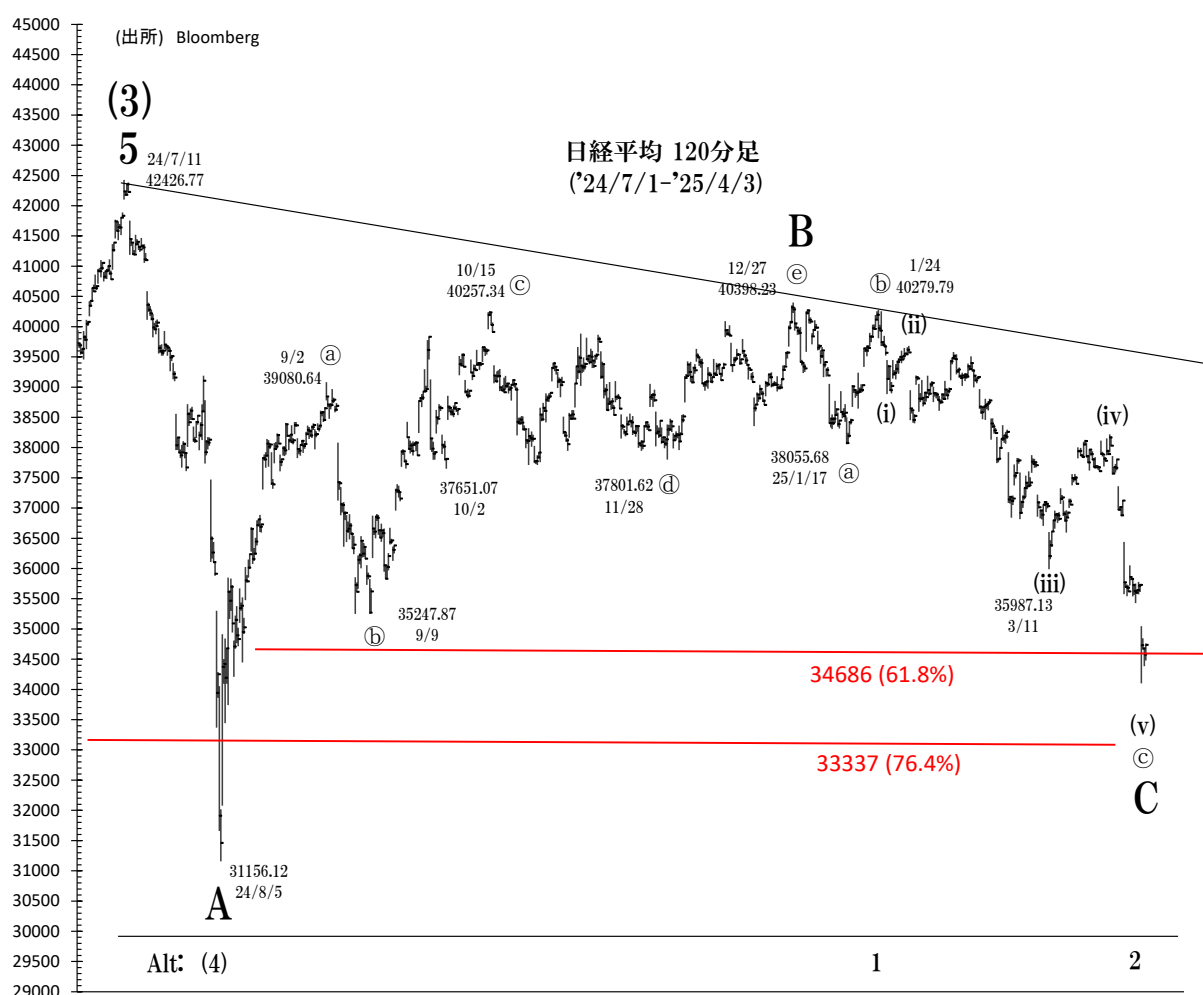
この第(5)波上昇を以て、コロナショック底以来5年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の3年間』完結)、その後はプライマリー第④波による停滞局面に移る、とみています。

24年7月以来のインターミディエイト級第(4)波の調整は続いています。第(2)波が「ジグザグ」だったことから、オルタネーションに則り、第(4)波形状は「トライアングル」、「フラット」、などの保ち合い型になるでしょう。

TOPIX は昨年9月安値の攻防

4月3日にTOPIXは一時2536まで下げました。この近くには、昨年8月からの上昇の半値押し[2514]、昨年9月11日に付けた安値[2508]、これら節目が重なる強いサポートレベルで下げ止まるかに注目です。TOPIXの第2波「フラット」は終わりつつある、と思われます。





【時間足 エリオット波動分析】

40,398 円(12/27 高値)からは、第(4)波「シンメトリカル・トライアングル」(A-B-C-D-E)における、C 波の下落に当たります。

日経平均は「二番底」に接近中とみられます。

4 月 3 日の日中安値(34,102 円)は、B 波の 61.8%押し[34,686 円]を下回ったものの、終値(34,735 円)は節目を維持しました。この日の安値を付けた時点で、予想 PER は 13.95 倍まで低下しましたが、これは過去 10 年間の平均(15.04 倍)を大きく下回っています。

トランプ関税によるネガティブ・インパクトは大きく、しばらく不安定な状況は続きそうです。しかし少なくとも当面の割安感は強まっている、と思われます。

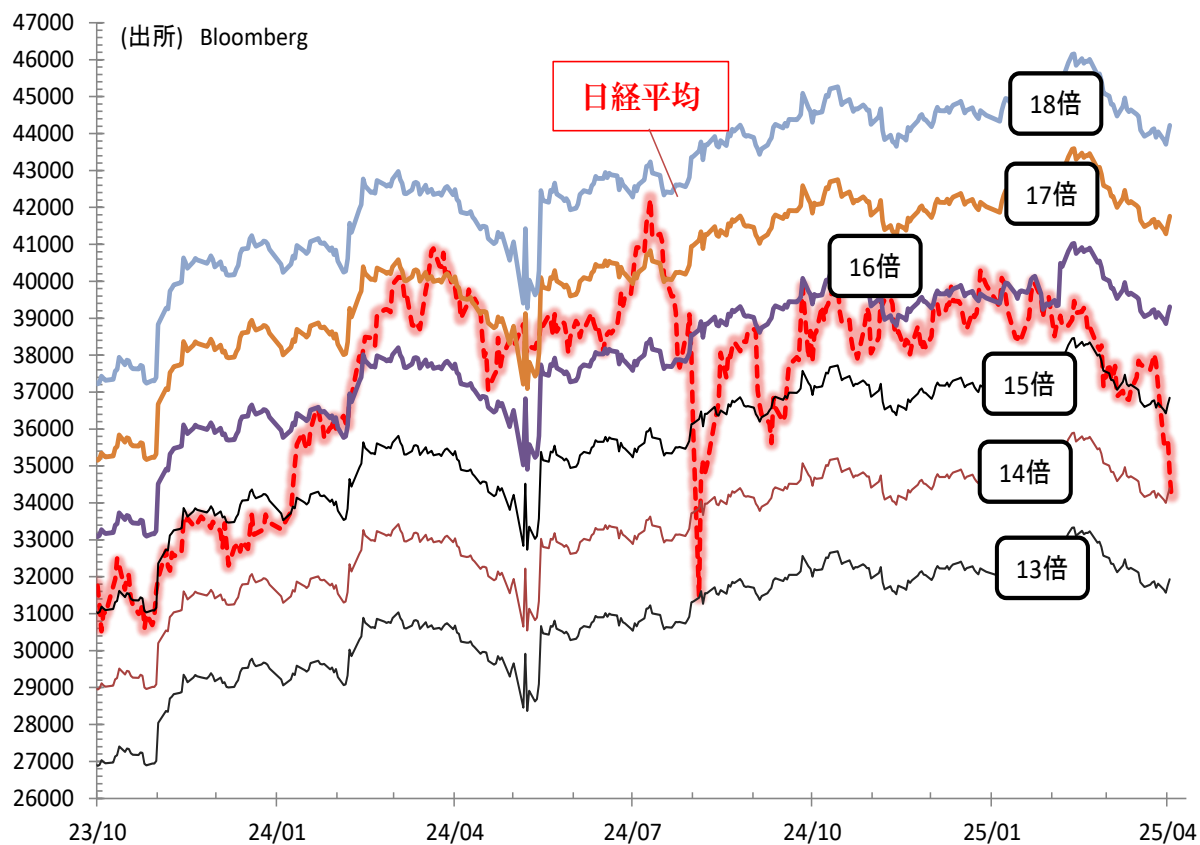
ただし地合いは急速に悪化しています。さらに下値試しが続く場合、以下の水準への下値試しの可能性も否定できません。

[33,337 円]…B 波の 76.4%押し水準

[32,820 円]…B 波/A 波=0.82 だったことから、C 波/B 波=0.82 を想定

[予想 PER 別の日経平均水準]

日経平均予想 EPS は 2456 円(4/3)。過去最高は 2564 円(2/13)です。



NY ダウ・S&P500

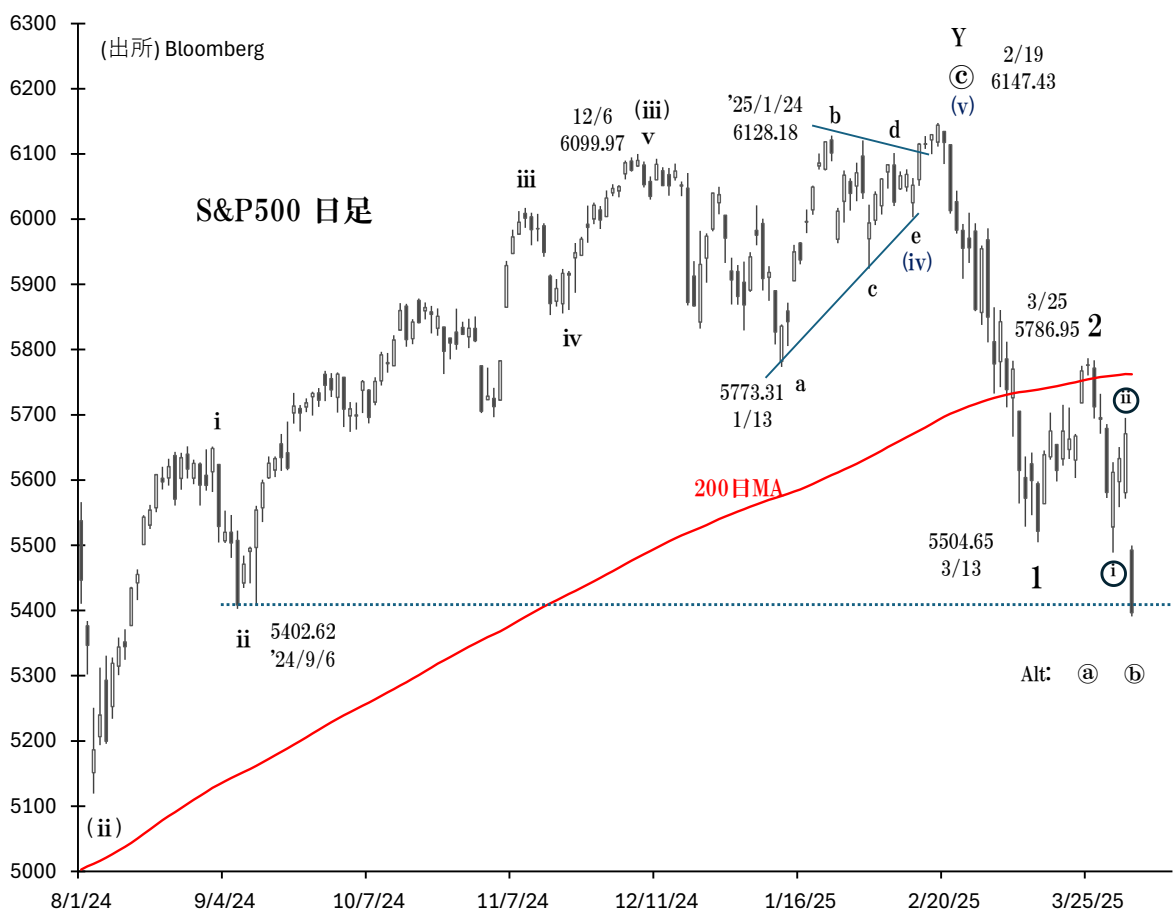


【日足 エリオット波動分析】

NY ダウは 45,073 ドル(12/4 高値)から、(C)波の下落局面が進行中とみられます。

22 年 1 月～10 月の(A)波は 22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、より大きな下落スケールになると思われます。試みに最高値から 22.4%下げる水準は[34,977 ドル]であり、3 万 5000 ドル処は中期タームの下値目標といえそうです。

今後数カ月内の下値目標としては、[37,611 ドル](24 年 4 月安値)に注目です。これは「エンディング・ダイアゴナル」開始点水準です。

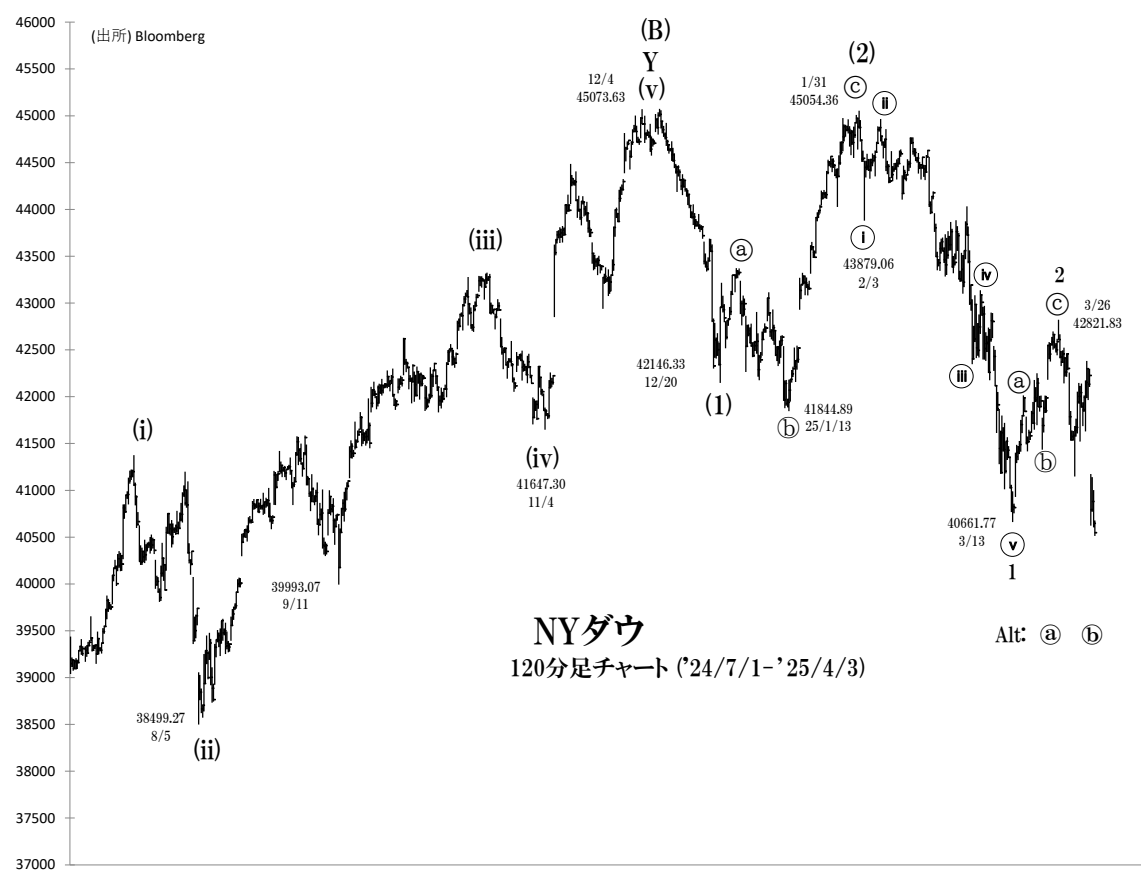


【S&P500 日足 エリオット波動分析】

4月3日には一時 5390 まで下げ、およそ 7 カ月ぶり安値となりました。

5786(3/25 高値)からマイナー級の第3波による下落が進行中とみられますが、この見方が正しければ、今後数カ月以内にも、[5144](1波と3波が等しく下がる水準)を下回る展開がありそうです。

一方、5504(3/13 安値)からの第 2 波が「エキスパンディット・フラット」を形成する、という目は(低いながら)まだ残っています。この場合ですと短期的にも◎波の上昇が始まり、数週間内には 5786(3/25 高値)に接近するか、あるいは上回るでしょう。



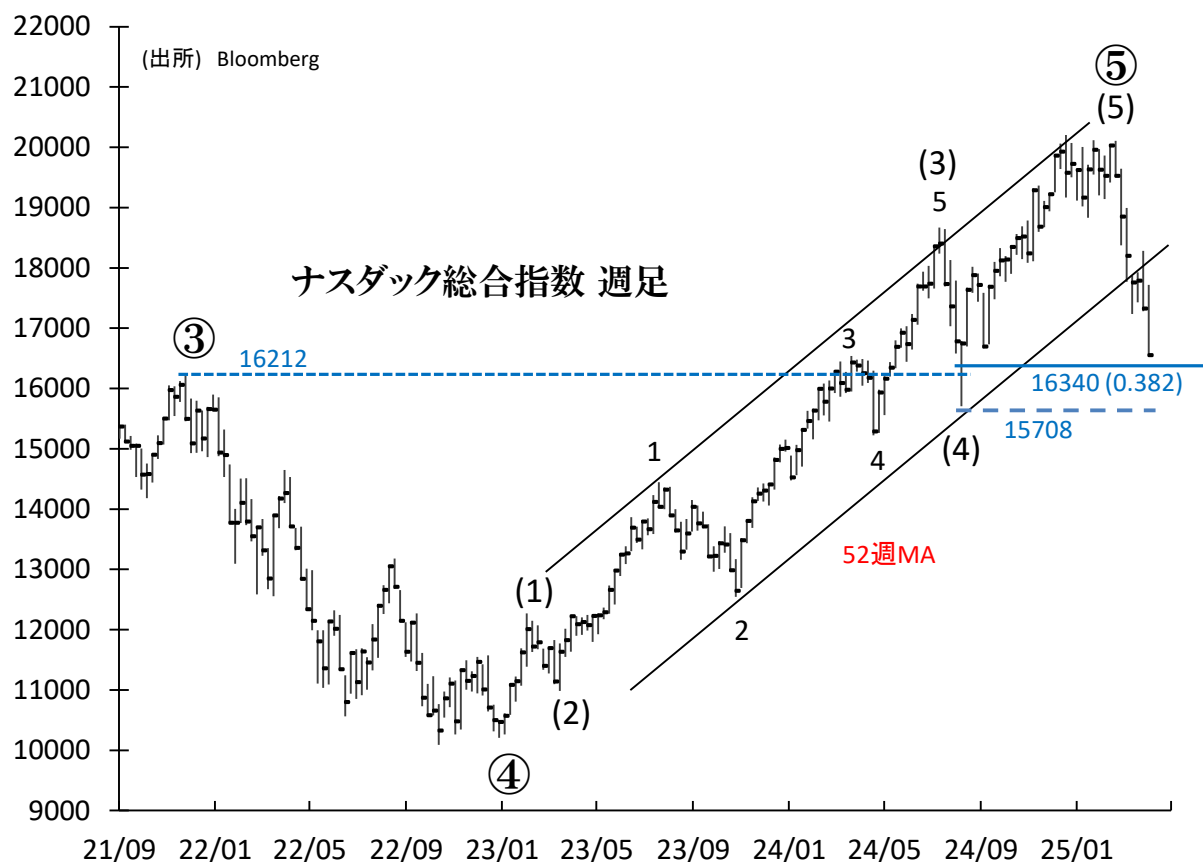
【時間足 エリオット波動分析】

1 月高値 45,054 ドルからの下げは、インターミディエイト級第(3)波に位置付けられます。

4 月 3 日にはコロナショック以降で最大の下落(1679ドル安)となり、40,661ドル(3/13 安値)を下抜きました。NY ダウは第(3)波中第 3 波、「サード・オブ・サード」の大幅下落局面にあるとみることができ、(先に書いたように)数カ月内に 37,611 ドルを試す可能性があります。

一方、第(3)波中第 2 波のリバウンドが継続している場合には、NY ダウは短期的にも©波による上昇を開始するでしょう。それにより NY ダウは、さらなる大幅下落の前にいったんは、42,821 ドル付近まで水準を戻す可能性があります。

ナスダック



【ナスダック総合指数 週足 エリオット波動分析】

ナスダック総合指数(以下、ナスダック)は、22 年 12 月安値(10,207)からサイクル級の調整が進行中とみられます。

4 月 3 日には一時 16,533 まで下げ、フィボナッチ比率からのチャート節目[16,340] 22 年 10 月から 24 年 12 月までの上昇に対する 38.2%押し水準)試しが視野に入りました。プライマリー③波高値は[16,212](21/11/22)であり、1 万 6000 処は当面の強いサポートレベルとみることができます。

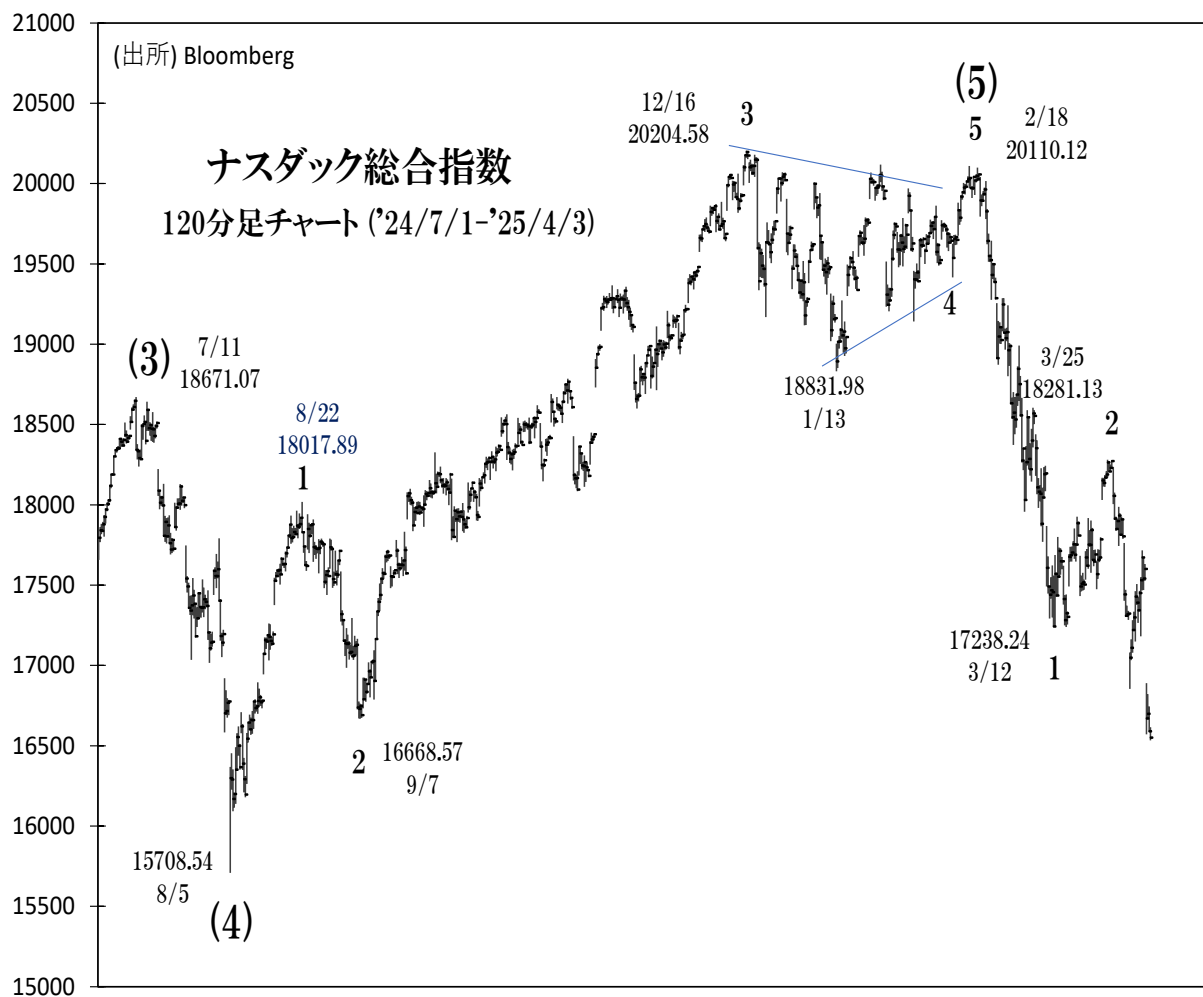
短期的にも下がり過ぎであり、そろそろ下げ渋ることもありそうです。

ただし今後の数カ月内というタームでみれば、1 万 6000 割れとなっておかしくないでしょう。

[15,708]…プライマリー①波のレツサーディグリー(4)波安値

プライマリー④波の下げ率(37.77%)は、ほぼフィボナッチ比率(38.2%)でした。今後 1～2 年という期間では、[12,527] (24 年 12 月高値から 38%下げる水準)へ下押し可能性もありそうです。





【時間足 エリオット波動分析】

4月3日安値(16,533)は、注目チャート節目[16,340](既出)に近づいており、そろそろ下げ止まっておかしくないでしょう。

もしも短期的に下げ止まることができた場合、第2波によるリバウンドが継続中という可能性が残ります。このケースで第2波は、18,281(3/25 高値)に接近あるいは、一時的にも上回る、展開があり得ます。

一方18,281(3/25 高値)からの下げがマイナー級の第3波であるならば、大きなリバウンドが始まる前に、第3波により[15,708]が試されるでしょう。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、2011 年からの上昇チャネルのセンターライン(①)が強いサポートになるでしょう。

①の水準は 136.425 円(4 月)に位置します。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は 116.800 円(4 月)です。



【週足 エリオット波動分析】

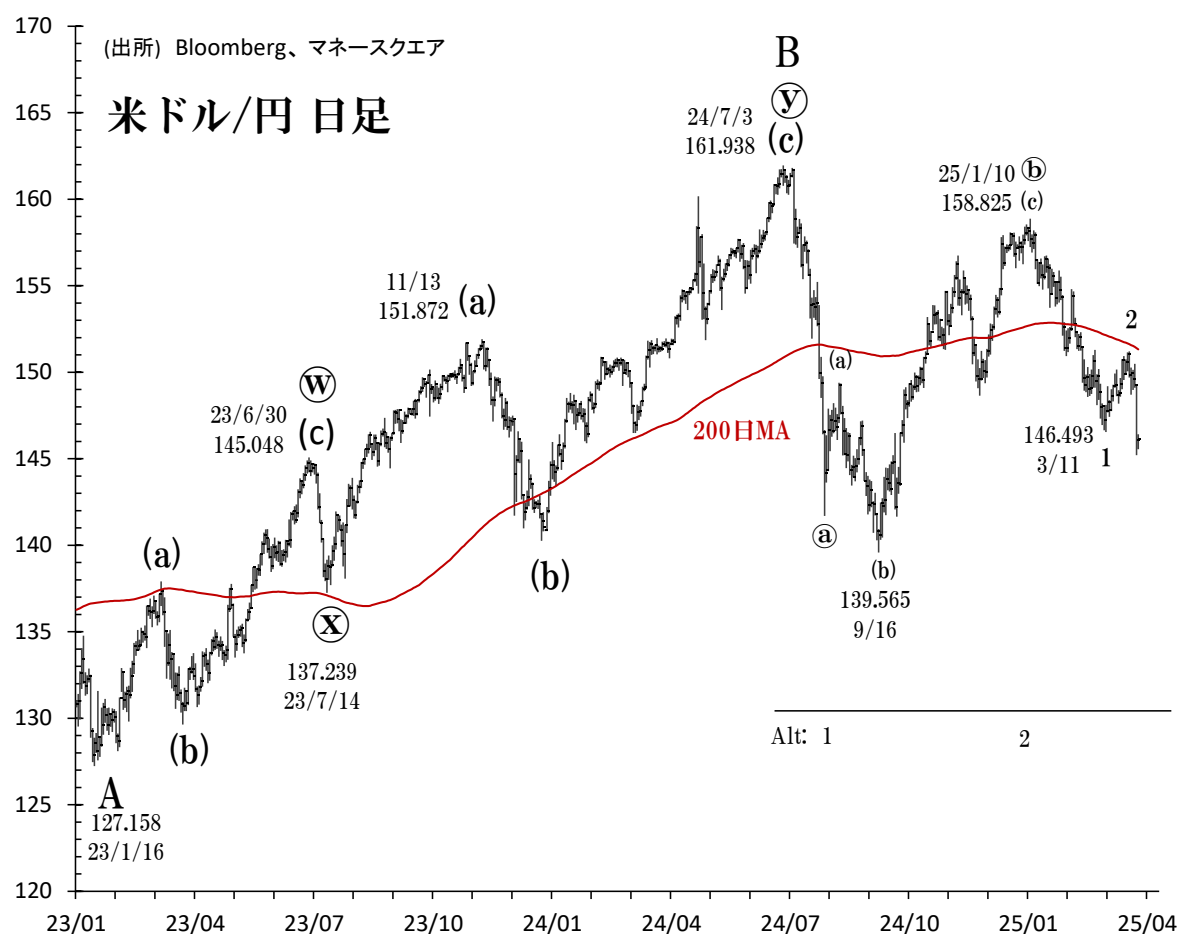
161.938 円(24/7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドです。月足分析で記した B 波[トライアングル]説によれば、C 波は三波構成(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)になります。158.825 円(1/10)から、Ⓒ波によるドル安・円高が進行中とみられます。

短期的にも、ドル/円は 143 円処を試す可能性があります。143 円処には、過去 2 年間にわたるチャネルの下限があり、この辺りまで来るといったん下げ渋る展開がありそうです。

もっとも今年の前半にもドル/円は、24 年 9 月の 139.565 円を下抜く可能性があります。以下の水準はⒸ波ターゲットとして要注目です。

[138.517 円]…Ⓐ波とⒸ波が等しく下がる水準

[136.452 円]…24 年 7 月から 9 月までドル/円下落幅と、今年 1 月からのドル/円下落幅が等しい



【日足 エリオット波動分析】

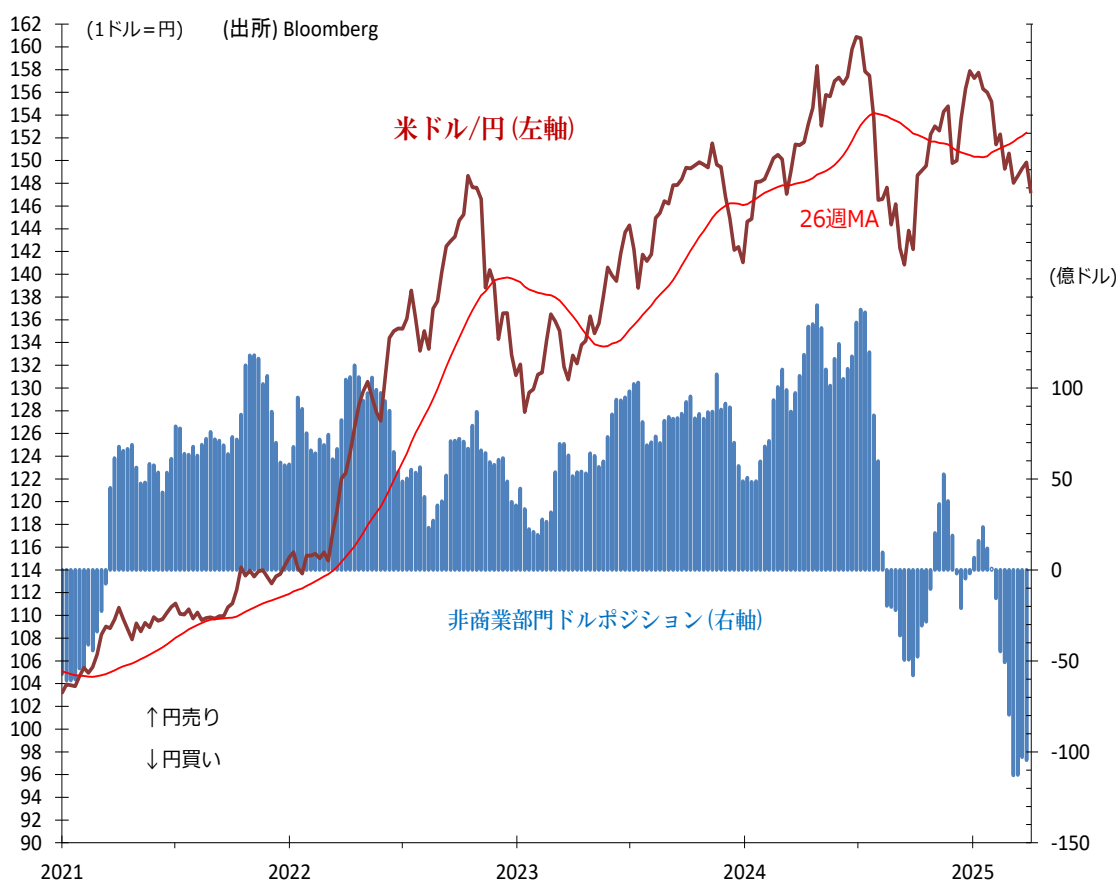
146.493 円(3/11)からの第 2 波によるリバウンド局面は、151.191 円(3/28)を以て終わり、そこからは第 3 波によるドル安・円高トレンドに入った可能性が高いでしょう。そうであれば、短期的にも 143 円処を試す展開となりそうです。

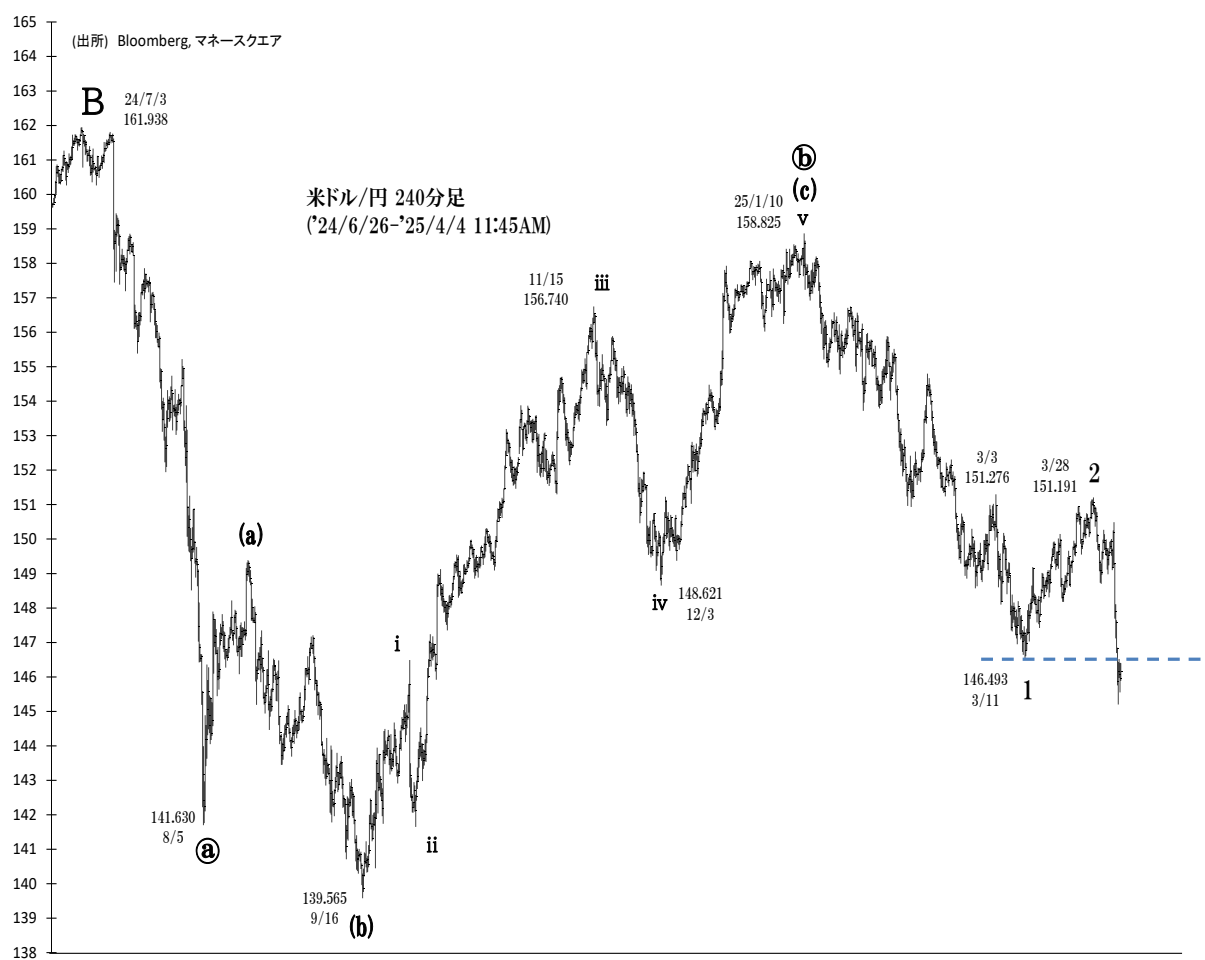
金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[141.365 円]です。

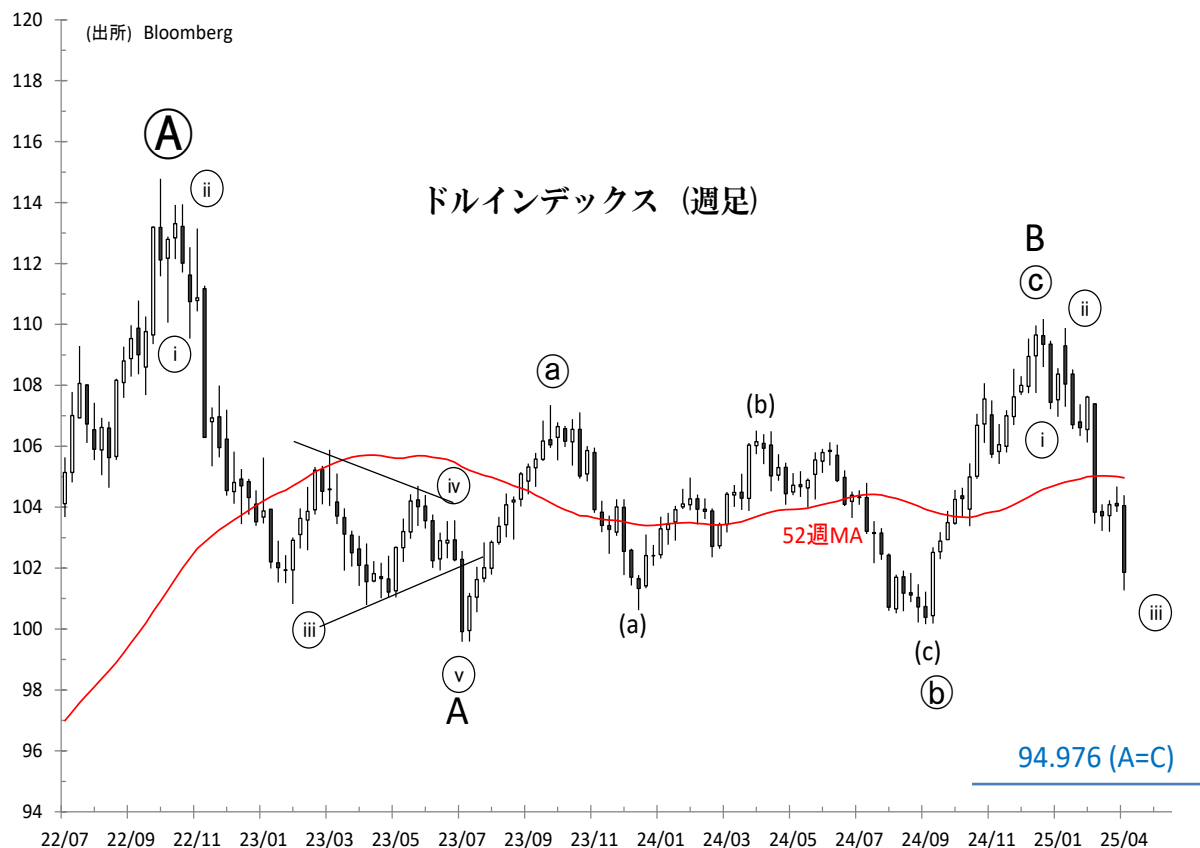
投機筋の円買い持ち高は 2 週ぶりに増加(2025 年 3 月 25 日時点)

IMM 通貨先物市場における、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 102.9 億ドルから 104.5 億ドルへ、2 週ぶりに増加しました。





ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

110.176(1/13 高値)からのドル安は、C 波に位置付けられます。

109.881(2/3 高値)から C-マル iii 波によるドル安が進行中です。今週は急速にドル安が進行し、昨年 10 月以来の安値を付けました(想定に沿った展開です)。

22 年 9 月～23 年 7 月の A 波において、ドル指数は 10 カ月で 13.2%減価しました。C 波も同様と仮定すると、今年 11 月頃にドル指数が[95.632]まで下げる可能性を指摘できます。

なお A 波と C 波が同幅下げるとすると[94.976]が得られます。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4% 以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10% です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
